

序

Preface

富山医科薬科大学は、昭和52年度に研究活動一覧第1輯を創刊し、昨年4月に国立大学法人化となってからもこの歴史を引き継ぎ、この度、平成16年度の研究活動一覧第28輯を発刊する運びとなりました。

この研究活動一覧は、本学のどの部局で、誰が、どの分野において、どのような研究業績を挙げているかなど、本学の人的、知的、物的資源に関する貴重な情報を提供してくれます。これらの情報は、共同研究の実施や、セミナーなど学内の教職員の人的、知的交流を密にするために大いに役立つものと信じています。

教職員の皆さんは、この交流を通して本学の目玉となるような研究組織の構築、研究の目標や独創的・先駆的課題の設定などを企画し、研究戦略を立て、法人化後の大学に不可欠な競争的資金の獲得に常日頃から備えていただくよう切にお願いします。

一方、大学における社会貢献・地域連携は、教育・研究と並ぶ重要な大学の使命の一つでもあります。このように研究成果一覧を、広く学外へ公表することは、大学の知を社会へ還元する一助としての重要な役目も果たしています。

近年、本学では、医学部に「救急・災害医学講座」を新設し、医学系研究科には基礎医学と臨床医学からなる「認知・情動脳科学専攻」が、附属病院には「神経内科」が設置され、研究・診療環境は大幅に改善されました。

さらに、21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」や知的クラスター創生事業「とやま医薬バイオクラスター」が順調に成果を挙げています。折りしも多年の地道な努力の成果と先見性のある将来展望が評価され、科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業のチーム型研究（CREST）に「情動発達とその障害発症機構の解明」が、同じく個人型研究（さきがけ）に「極性基が配列した低エントロピー型分子認識アレイの開発」がそれぞれ採択されました。今後、研究活動は益々活発になることが期待されます。

これらの実績を突破口とし、この研究活動一覧にさらに多くの研究成果が報告され、本学から世界に通用する新情報を発信していけることを切望しています。

学 長 小 野 武 年

President Taketoshi Ono

本書の内容は富山医科薬科大学のホームページでもご覧頂けます。
The contents of this report are also listed on our university web Site:

<http://kenkyu.toyama-mpu.ac.jp/kenkyu.NSF>